令和5年度

船越小

学校通信 第3号 全校児童数96名 令和5年 7月20日 久留米市立船越小学校 校長 園木 聖子

【学校の教育目標】未来の船越をつくる子どもの育成 【重点目標】つながりつなぎ楽しむ子どもの育成【合言葉】つながりつなぎ楽しむ

あの大雨が残したものは…

この度の大雨による被害に遭われた皆さま、心より、お見舞い申し上げます。

7月 I O 日は、早朝から、これまで経験 したことのない大量の雨が降りました。

船越小にも、不安を抱えて避難をして来られる方の姿がありました。一時、校長室からは運動場の遊具も体育館も見えなくなるほどの強い雨が続きました。船越校区内にも浸水被害のあった地区があり、今も田主丸町内のいたる所で、復旧作業が続いています。

近隣の小学校にも、制服や教科書、ランドセル、大事にしていたおもちゃ、家族と



の思い出が詰まった写真…大切なものが泥だらけになってしまった子どもたちがいます。あの大水の中、とても持ち出せる状況ではありませんでした。大切なものを思いもよらない場面でなくすというのは、本当に悲しいものです。私もこの3日間、家族との思い出が詰まった大切なものを泥だらけの部屋から集積場に運び出す作業に明け暮れました。こんなとき、「お互い様だから」と言って手を貸してくださる方のあたたかさが、本当に支えになることをあらためて実感しました。

この3連休、自分の家や親戚・近所の方の家、知り合いの方の家の片付け作業を手伝った子どもたちもいると思います。「問題を自分事としてとらえ、どうすれば解決の方向に向かうのかを共に考え、協働することができる。」これは、本校が目指している「未来の船越をつくる子ども」として、大切にしたい立派な姿の一つです。

『誰もが安心して安全に学べる学校づくり』に力を

4月6日(|年生は4月||日)から始まった第一学期が終わりました。 私も、① 自分で子どもたちの様子を見て・子どもたちの声を聞いて

- ② 子どもたちの作品を見せてもらって
- ③ 先生たちから話を聞いて…

いろいろな方法で、子ども一人一人の学習と生活の足跡をたどりました。 すると、どの子も、

「もっと、上手になりたい」

「もっとわかるようになりたい」

「上手にできるようになったところを見てほしい」

「本当に努力しているところをわかってほしい」

そんな思いをもって、学校生活を送っていることが、あらためてわかりました。 本校では、どの子の願いも叶うよう、「自分も周りの人も大切にする」心を大事 にしています。中には、この | 学期、

「今、こんなことがあっていて、心配なんです。このままじゃいやです。 みんなと一緒に変えていきたいです。」

と、勇気を出して学級の友だちと先生に語りかける子どもたちもいました。「自分 もまわりの人も大切にする」心がこもっている言葉です。素晴らしい成長の姿だ と思います。

誰もが安心して学べるようにするためのルールを意識し、みんなで大切にしながら、学級集団の質をよりよい方向に変えていきたいというのは、子どもたちの願いでもあるし、担任はじめ、職員一人一人の願いです。実現に向けて、二学期さらに、『誰もが安心して安全に学べる学級・学校づくり』に力を入れてまいります。どうか、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

『自分も周りの人も大切に』できる夏休みに

明日から子どもたちは、34日間の夏休みに入ります。今年の夏は、この3年間できなかった地域の大きな行事も計画されています。子どもたちが積極的につながり、この船越校区で過ごせることを誇りに思えるようになることは、学校の教育目標である「未来の船越をつくる子どもの育成」を実現していくためにも、とても大切なことだと考えています。

そこで、この夏休みは、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」のために日頃からご尽力いただいている地域の方々とふれあう機会をたくさん持ってほしいと思っています。子どもたちには、、いろいろな形で自分を支えてくださっているご家族や地域の方々への感謝の気持ち、そして、町内の復旧作業に多くの方が携わっておられることを忘れず『自分も周りの人も大切に』できる夏休みを過ごせるよう願っております。

8月・9月の主な行事

8月	9月
4日(金) 平本本) 学習 校閉	Ten